

平成28年度 校内研究の取組

1. 学校教育目標

子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進

めざす子ども像

- ・進んで考え、表現する子
- ・自分や仲間の良さを認められる子
- ・きまりを守り、楽しく活動する子
- ・運動に親しみ、健康な生活をする子

2. 研究主題

読む力を育て、進んで考え、表現できる子をめざして
～読むために書く 書くために読む 国語科の授業づくり～

研究の重点目標

説明的文章の指導内容を整理し、指導方法を研究し、読む力・書く力を育てる。

研究主題・重点目標の設定

本校は長年、旧同和地区児童をはじめ、すべての児童に生きる力を育むために、国語科を中核に据えて研究を行ってきた。養正小学校の児童一人一人が、言葉の力を身につけることが、より豊かに生きていくために必要な力であると考えたからである。言葉の力を身につけさせるために、国語科を中心に授業研究に取り組み、確かな学力をつけたいと考えている。

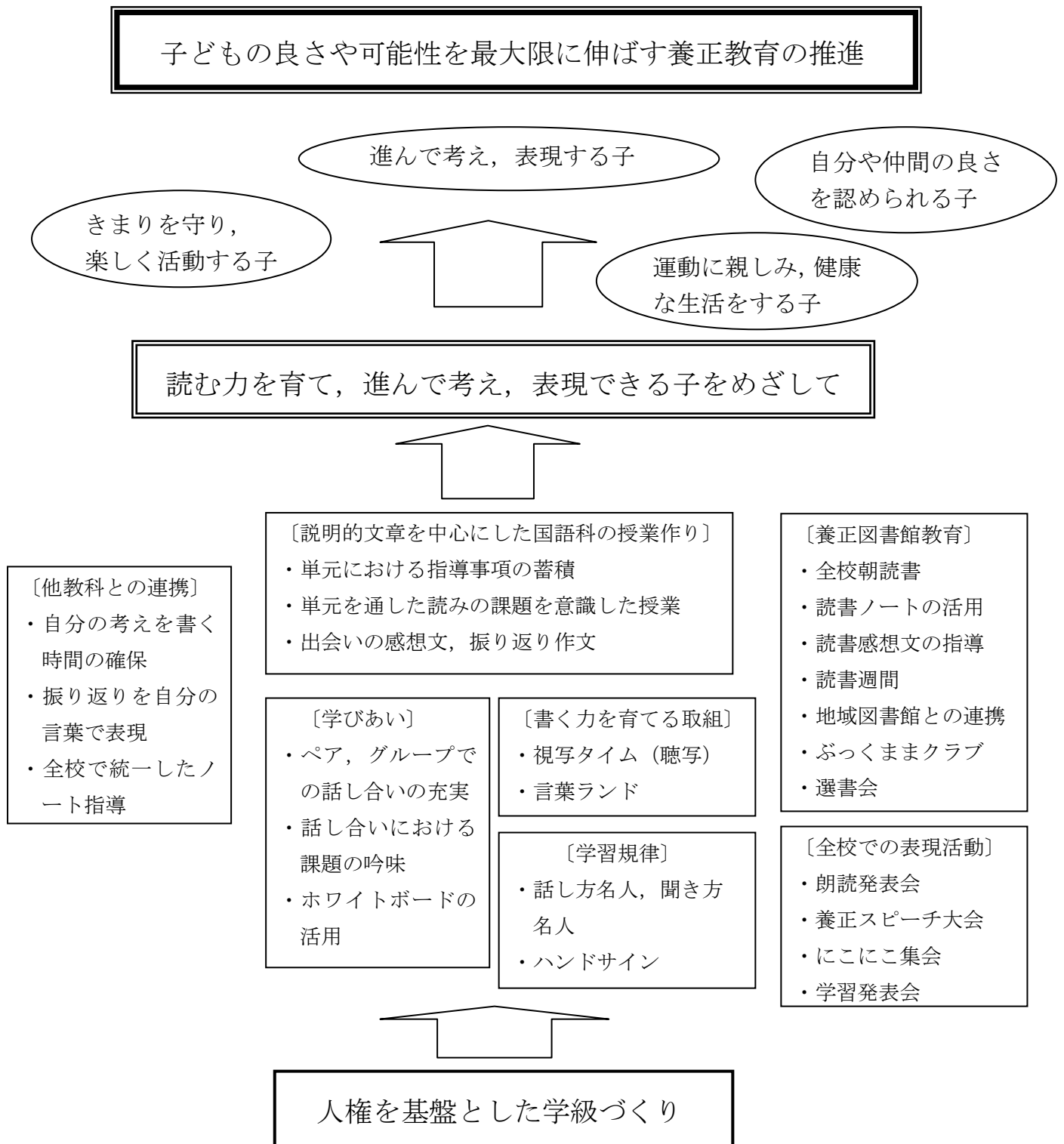
ただ、本校の学力の実態に目を移すと、確かな学力がついているとは言い難い。国語科における昨年度のジョイントプログラムの結果は、全市より4.2ポイント程度下回っている。読むことの領域では、物語文・説明文ともに全市より約5ポイント下回っている。書くことの領域では、8.9ポイント下回っている。特に本校の児童の課題として挙げたいのが、書く設問における無解答の多さにある。本校の無回答率は、16.7%になる。全市との差は11ポイントである。これには、意欲面のほかに、課題文を読み取る力や自分の考えを筋道立てて書く力の不足が考えられる。こういった課題を克服するために、説明的文章を中心にし、読む力・書く力を育てたいと考えている。

説明的文章を中心に上げた理由は、説明的文章を読む力を身につければ、文章を書く力につながると考えたからである。ジョイントプログラムにおいて、書くことの設問は、「①文章を読んで課題を把握する。」「②課題に対する自分の意見をもつ。」「③意見形成を行う。」「④事実に基づいて説明する。」という流れで問題を解いていく。この流れは、説明的文章の筆者の思考と同じである。説明的文章を読む力とは、書かれた内容を正確に読み取り、表現の工夫や文章の構成に仕組まれた筆者の意図を読み取り、要旨をとらえ自分の考えを表現できる力のことである。つま

り、読解と表現をつなげる教材として説明的文章が最適であり、本校児童の学力向上のために、必要であると考えた。

また、副題の「読むために書く 書くために読む」とは、読むことと書くことを常に関連させながら指導することである。「読むために書く」とは、1時間の授業において、学習課題に対し、児童一人一人が考え、意見をもつ。ここでは、読みを深めるための考えをもっているのは限られた児童である。思いつきで感覚的なものである。感覚的な言語を論理的な言語に再構成する必要がある。つまり、自分の考えを書くことである。書くことにより、自分の考えを再構成し、論理的に読みを深めるものになると考える。また、「書くために読む」とは、例えば意見文を書くという言語活動を設定する。まず、自分の意見を形成するには、筆者の要旨を正確に読み取らなければいけない。さらに、文章構成や表現技法といったところから筆者の意図を正確にとらえ、意見文を書くときの材料としなければいけない。つまり、単元のゴールを明確にし、そのために教材を読み取り、その読み取ったことを活用できる力を育てなければいけない。「読む」と「書く」を関連させた国語科の授業作りを進めていきたい。

3. 研究構想



4. 具体的な取組

①説明的文章の単元における指導事項の蓄積と明示

指導事項とは、文章を読むために用語や方法を教えることである。教科書の『たいせつ』や京都市の指導計画に記載されている用語や方法を当該学年で指導しきり、児童が次の学年で学んだことを活用できるようにする。児童が学びの蓄積を実感するために、指導事項を教室に掲示したり、ノートを活用したりして明示する。

説明的文章の解釈に関する指導事項

低学年では、**時間的な順序や事柄の順序**などを考えながら内容の大体を読むこと、中学年では、目的に応じて、**中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むこと**、高学年では、目的に応じて、**文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること**を示している。

なお、文章の解釈とは、本や文章に書かれた内容を理解し意味付けることである。具体的には、今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく。文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、読み手は自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりしていくことである。

『小学校学習指導要領解説（国語編）』

学習の系統性の重視

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。

『小学校学習指導要領解説（国語編）』

②重点教材

年間3本～4本の説明的文章の教材

昨年度の実践をもとに、さらなる積み重ねを図る。

③単元の流れの共通理解

出会う 範読

形式段落の番号をふる（①，②・・・）

難語句の意味調べ（辞書の活用）

出会いの感想文を書く。

文章構成をつかむ（初め・中・終わり）

- ・初めの役割（問い・話題提示・筆者の主張）を考える。
- ・終わりがどこからなのか考えることによって，筆者の主張がわかる。
- ・中を筆者がどのように説明しているのか，表現の工夫に気づく。
- ・文章全体を俯瞰的に読む力がつく。

読む 指導事項をもとに授業を行う。（研究授業）

単元を通した読みの課題を意識した指導

表現する 指導事項を活用できる言語活動

振り返る 単元の振り返り作文を書く。（何を学んだかを表現させる）

④1時間の授業の流れ

課題把握(めあての提示，学習教材の音読)

↓

一人学び（考えをノートに書く）

↓

みんな学び（ペア・グループ→全体）

ここで今まで培ってきた学びあいを生かしたい。学びあいとは，それぞれの考えを言い合う場ではない。誰の考えが良いのか話し合ったり，考えを出し合い正しい考えにたどりついたりすることが大切である。したがって指導者としては，話し合える学級作りはもちろん，話し合いのスキルも身につけさせなければならない。何より大事なのは，話し合いたいと思えるような発問である。

↓

振り返り（1時間で学んだことを書く）

⑤全文シート

教科書を使つての指導と並行して，全文を打ち込んだプリントも使い指導する。

⑥ノート指導

思考力・表現力を意識したノート作り。原則ワークシートを使った授業は行わない。1時間の授業の流れに沿って，書けるようにする。

⑦言葉ランド（月２回程度）

文法や作文指導の時間とする。書く活動を授業時間に組み込み日常的に指導する。

１時間の流れ 言葉慣れ（１５分）→作文（２０分）→相互評価（１０分）

⑧視写ベーシック（週１回）

書き慣れの時間とする。文章を書き写すには、単語、文節、文を意識することが必要になる。各学年に応じた文字数を設定し、その時間に書ききるようにする。手本となる文章に慣れ親しむようになる。

５分間	１年	１２５字	２年	１７５字	３年	２００字
	４年	２２５字	５年	２７５字	６年	３２５字

⑨朗読発表会（７月）

単元の出口として、朗読発表会を設定する。

- ・ことばを大切にして、作品と向き合い、表現する楽しさを味わう。
- ・全校で朗読大会を開き、交流する楽しさや聞く楽しさを味わう。
- ・朗読や群読にクラス全員で取り組むことで、お互いの声を聞きあい表現を工夫しあい、声が重なる心地よさを味わう中で集団としての高まりを感じる。

⑩養正スピーチ大会（２月）

単元の出口として、養正スピーチ大会を設定する。

- ・相手意識をもって、目的や意図に応じて、事柄が分かりやすく伝わるように、話の構成を工夫し、場に合った適切な言葉遣いで話すことができる。
- ・話し手の意図を考えながら聞くとともに、話し方の工夫や音声表現のよいところを聞き取り、自己の表現に生かしていこうとする態度を育てる。

⑪読書指導

- ・全校朝の読書タイム（８：３５～４５）
- ・読書ノートの活用（目標達成者には表彰）
- ・図書バック（机の横にいつも本がある状況）
- ・読書週間（読み聞かせや読書バザールなどの取組）
- ・地域図書館との連携（サテライト図書館・東山総合支援学校）
- ・親子で本と楽しむ会やぶつくまクラブ（地域の方などによる読み聞かせ）

⑫話し方名人・聞き方名人・ハンドサイン

○教室掲示

	聞くこと	話すこと	話すとき、つかってみよう
低 学 年	あ あいての目を見て い いい（よい）しせいで う うなずきながら え えがおで お おわりまで だ だいじなことをおとさず	さ さいごまで あ あいてを見て か かんがえまとめて き 聞こえる声で く 口をあけて け けっしてあせらず こ ことばをたいせつに	はい。～です。 ○○さんとおなじで～です。 わたしは～だと思います。 そのわけは、～です。 ○ページ（○段落）を見てくだ さい。
中 学 年	あ 相手を見て い 一生けんめい う うなずきながら え 笑顔で お 終わりまで	か かんたんな文で き 聞こえる声で く 口を大きく け 決して急がずに こ 言葉づかいに気をつけて ま 前（相手）を見て	はい。わたしは、～です。 ○○さんに つけたして～で す。 ○○さんに しつ間ですが～ その理由は～だからです。 ○ページ（○段落）の△からも わかるように～です。 どうですか。
高 学 年	おもいによりそう 聞き方を 相手の意図をくんで 話し手に共感して 最後まで 答えやすい質問を	心にひびく話し方を 聞き手に向かって届く声で 要点をはっきりさせて 間・速さ・強弱などを工夫して 場に応じた話し方で	はい。私は～です。 その理由は～だからです。 私も～さんと同じで～です。 その理由は～だからです。 私は～さんと違って～です。 その理由は～だからです。 ○ページ（○段落）の△から～ ということが分かります。 どうですか。
全 学 年	ハンドサイン グー 同じ意見・関係・賛成 チョキ つけたし パー 新しい意見 違う意見		返事でかえす・・・はい うなずく・・・なるほど かしげる・・・おや

5. 研究組織と進め方

○研究組織

研究部（木村・篠原・熊谷・小島）・・・月1回の部会

育成部会（渋谷・篠原・佐藤・脇野）

低学年部会（熊谷・志賀・今西・山口）

中学年部会（小島・泰地・園部）

高学年部会（梶谷・木村・菱田）

○研究授業

支部発表授業 4本（育成・低・中・高）

①学年部会（学年・研究主任）で指導案検討

②拡大検討会（学年・研究部・佐藤・園部）で指導案検討

③授業検討会（学年・研究部）で模擬授業

④授業・事後研

研究授業Ⅰ 3本（低・中・高）・・・支部発表の学級以外，指導助言（指導主事）

①学年部会（学年・研究主任）で指導案検討

②拡大検討会（学年・研究部・佐藤・園部）で指導案検討

③授業検討会（学年・研究部）で模擬授業

④授業・事後研

研究授業Ⅱ 3本（低・中・高）・・・支部発表の学級，指導助言（管理職）

①学年部会（学年・研究主任）で指導案検討

②授業・事後研

6. 授業研究の重点

①説明的文章における指導事項についての理解を促す授業展開のあり方

②読みを深める発問のあり方

*本時では，どのような授業展開を工夫し，学びあいに至る発問をどのように考えたのか，指導者の意図を指導案に論述する。事後研究会では，工夫や発問について協議をし，指導助言を受ける。

7. 年間研究計画

月	日	曜	形態	内容・案件
4	14	木	校内研究会	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題，主題設定の理由 今年度の研究の方向性について 具体的な取組について
5	12	木	校内研究会	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章の指導事項について 書くことの具体的な取組について 指導案の形式について 朗読指導について 講師 住田 敬子先生
5	18	水	研究授業Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年研究授業「たんぼぼのちえ」
6	2	木	研究授業Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 第6学年研究授業「時計の時間と心の時間」 指導助言 中城 あさ代先生
6	29	水	研究授業Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 第4学年研究授業「動いて，考えて，また動く」 指導助言 西澤 徹先生
7	1	金	研究授業Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> えのき研究授業「かいけつゾロリの世界を探検しよう」
7	7	木	朗読発表会	<ul style="list-style-type: none"> えのき「かいけつゾロリと大ききょうりゅう」 第1学年「おむすびころりん」 第2学年「スイミー」 第3学年「たのきゅう」 第4学年「一つの花」 第5学年「古典の世界」 第6学年「森へ」
8	24	水	校内研究会	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章の指導法について 講師 中城 あさ代先生
9	9	金	研究授業Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年研究授業「うみのかくれんぼ」 指導助言 栗本 浩行先生
10	28	金	研究授業Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年研究授業「すがたを変える大豆」 第5学年研究授業「天気を予想する」
11	10	木	校内研究会	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会提案の確認
12	2	金	研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> えのき 第2学年 第3学年 第5学年 授業公開
2	17	金	養正スピーチ大会	<ul style="list-style-type: none"> 各学級代表者によるスピーチ大会
3	16	木	校内研究会	<ul style="list-style-type: none"> 年間反省 学力分析